

ABOUT 茨木市

【基礎データ】

人口 287,730人 (R2 国勢調査)
人口増減率 2.9%増 (府内3番目 R2/H27 国勢調査)
高齢化率 24.5% (府内3番目に低い R2 国勢調査)



【茨木市の歴史】

茨木市は日本でも有数の古墳群地帯で、古墳時代の初期から末期までの各時代の古墳が現存しています。

平安時代に、市の中央部を東西に走る西国街道の往来がさかんとなり、江戸時代には参勤交代などに利用され、大名などが宿泊した「椿の本陣」は全国でも珍しい日本交通史上の遺跡です。

明治に入り、明治4年(1871年)11月廃藩置県により大阪府の管轄となり、明治31年(1898年)10月茨木村が町制を施行しました。

昭和23年(1948年)に市制を施行し、その後の合併・編入を経て、現在の茨木市となりました。



太田茶臼山古墳 (継体天皇陵)



椿の本陣 (郡山宿本陣)

■合併・編入の歴史

昭和23年(1948年)1月	1町3村※が合併し、市制を施行	※茨木町・三島村・春日村・玉櫛村
昭和29年(1954年)2月	2村※を合併	※安威村・玉島村
昭和30年(1955年)4月	4村※を合併	※福井村・石河村・清溪村・見山村
昭和31年(1956年)12月	箕面市の一部※を編入	※豊川村東部
昭和32年(1957年)3月	1村※を合併	※三宅村

産業・住宅都市としての要素をあわせもつ都市となり、北大阪の交通・産業の要衝として重要な位置を占め、めざましい発展を遂げることとなりました。

人口も、昭和23年の市制施行時には、わずか3万4千人からスタートしましたが、現在では、**28万人**を超えるまちに大きく成長しています。

これも、先人から受け継いだ歴史と文化を守りながら、市民の方々と一緒に様々なまちづくり事業を展開してきた努力が、実を結んだ結果といえるでしょう。

茨木市の魅力

身近に自然が広がるまち



元茨木川緑地

■まちなかのグリーンベルト『元茨木川緑地』

「大阪府緑の百選」にも選ばれ、都会では珍しく、市の中心部に位置する全長約5キロメートルの緑地帯。

遊歩道では散歩やジョギングなどが楽しめ、季節の移り変わりを感じることができます。毎年春には「市民さくらまつり」が開催されるなど、まちなかでもほっとできる安らぎの空間です。

暮らしを楽しむまち

■食べて飲んで楽しめる「市民主体のイベント」

茨木市では、企画から運営まで市民の皆さんが直接携わるイベントが数多く行われています。

まち全体に音楽が鳴り響く「茨木音楽祭」、夏の風物詩である「茨木フェスティバル」や花火大会、ビールと音楽の祭典「茨木麦音フェスト」など、食べて飲んで楽しめる魅力あるイベントが季節を問わず開催され、賑わいを見せています。



茨木辯天花火大会



茨木麦音フェスト

教育・子育て環境が充実したまち



つどいの広場

■市内各所で子育てをサポート

子育て支援総合センターをはじめ、地域子育て支援センターやつどいの広場などの地域子育て支援拠点を設置しています。

また、子どもを預かる一時保育を、子育て支援総合センターや一部のつどいの広場、私立保育園等で実施しています。

歴史・文化が息づくまち

■世界に誇る「川端康成」や「キリシタン遺物」

茨木市は日本人として初めてノーベル文学賞を受賞し、本市唯一の名誉市民でもある川端康成が暮らしたまちとしても有名です。

また、千提寺地区、下音羽地区は、全国的にも珍しい「隠れキリシタンの里」で、教科書にも掲載されている「聖フランシスコ・ザビエル像」や「マリア十五玄義図」など、世界的に貴重なキリシタン遺物が発見された場所です。



川端康成

交通環境が充実した便利なまち

■抜群のアクセス網で、通勤・通学・買い物が便利

JR、阪急の2路線があり、約14分で大阪、約22分で京都に行くことができます。

また、市内にインターチェンジもあり、車でのアクセスも優れているほか、関西国際空港と茨木を結ぶ高速バスが市内2駅から発着していることも周辺市には無い利便性であり、広域の移動にとっても便利です。



JR 茨木駅

この他にも、茨木市ホームページ内の『茨木三昧!』では、「遊ぼう!茨木」、「住むなら茨木!」、各種イベント情報などを随時更新し、市の魅力を広めています。

茨木市ホームページ → 『茨木三昧!』
(<https://www.city.ibaraki.osaka.jp/ibarakizanmai/index.html>)

主要プロジェクト

■市民会館跡地エリアの整備

長年にわたり茨木市の文化芸術活動を支えてきた市民会館が、平成 27 年 12 月に閉館したため、その跡地を含む周辺エリアの整備をすすめています。

跡地の活用にあたっては、市民との対話を基本に検討していくという考えから、市民と市長が直接対話する「市民会館 100 人会議」を開催するとともに、市民同士でも対話を行う取組としてワークショップを行いました。

イメージムービーはコチラをご覧ください。 ↓

(<https://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/kikaku/shiminkaikanatochikatuyou/menu/48121.html>)

⇒新施設・広場の愛称が「おにクル」に決定しました！

(イメージパース)



(↑ 夜間イベント時)



(↑ 大ホール)



(↑ 5階読書テラス)



(↑ 5階図書館)

■安威川ダム周辺整備

建設がすすめられている安威川ダムの周辺地域について、北部地域の「ハブ拠点」と位置づけ、北部地域の活性化をめざします。

ダム湖の水辺環境や周辺の緑環境を生かし、アクティビティや学びの場、マルシェやレストランなどのにぎわいの場、市民活動の場など、市民の暮らしの満足度を高め、新たな交流人口や関係人口の拡大につながる施設整備・仕組みをイメージしています。

■施設整備イメージ

栈橋を整備し、カヌーやSUP等の水上アクティビティによる湖面利用が想定されます。また、地元漁業協同組合と連携した釣り場の整備が想定されます。

両岸を繋ぐジップラインやスカイウォークの整備が想定されます。広大な湖面と緑、ダム堤体と大阪市内を一望できるスポットとなるとともに、回遊性の向上が期待できます。

親水公園を整備し、デイキャンプや森林アスレチック等による、水と緑を生かした活用が想定されます。

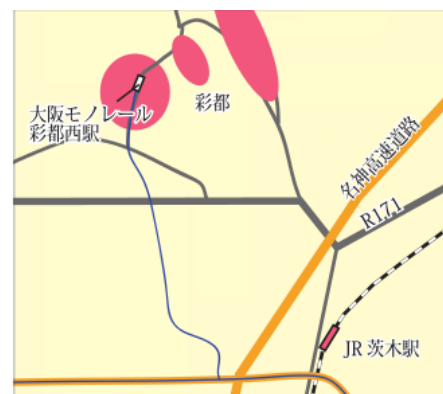
北部地域の拠点となる、特産品の加工・販売や情報発信、市民活動等が行える施設を本市が整備する予定です（整備内容は民間提案による）。レストランやカフェなどの併設が想定されます。府道に面するため、高い集客が期待できます。

キャンプ場等の宿泊機能の展開が想定されます。湖面に近接した半島状のエリアは、非日常感が味わえます。

※各エリアとも、イメージであり、定まったものではありません。

■彩都（国際文化公園都市）のまちづくり

市北部の丘陵地で事業が進む彩都は、自然と都市が調和した都市環境を創造し、「働く、住む、学ぶ、憩う」ことのできる複合機能都市の形成をめざしています。



JR 茨木駅から車で約 20 分

西部地区内には大型商業施設や小・中学校が立地し、彩都和中心市街地を結ぶモノレール・バス路線が開通しているため利便性が高く、現在1万人以上（箕面市域含む）のまちに成長しました。

また、シンボルゾーンであるライフサイエンスパークにはライフサイエンス関係を中心とした企業が進出し、働く場としての魅力も向上しています。